

2025 年度第 1 回東海大学医学部付属病院医療安全管理業務監査委員会議事録

1. 開催日時：2025 年 10 月 3 日（金）10:00～11:55
2. 開催形式：ハイブリッド会議形式（東海大学伊勢原キャンパス 1 号館 2 階 第 1 会議室+Zoom）
3. 出席者：
 - 【監査委員】長谷川 委員長、内嶋 委員、安田 委員、鈴木 委員（欠席：山口 委員、石井 委員）
 - 【病 院 側】渡辺 病院長、小川 副院長/医療安全管理責任者、森 副院長/看護部長、
守田 医療監査部長、鈴木 薬剤部長、
林 医薬品安全管理室長/医薬品安全管理責任者、
本村 医療機器安全管理室長/医療機器安全管理責任者、
梅澤 医療監査部次長/医療安全専従医師、
水元 医療監査部次長/医療安全対策課長/専従医療安全管理者、
堤 医療安全対策課/専従医療安全管理者、橋本 医療安全対策課/専従看護師、
羽村 医薬品安全管理室/医療安全専従薬剤師
鈴木 医薬品安全管理室/医療安全専従薬剤師、
川添 医療機器安全管理室/医療安全専任技師、
笠原 医療放射線安全管理室/専従診療放射線技師
萩野 病院運営企画室次長/事務課（経営企画）課長、
笠原 病院運営企画室/事務課（総務）課長、栗木 医療安全調査課長、
石坂・飯塚・須田 医療安全対策課/事務局
4. 配布資料：1) 監査委員会次第 2) 監査委員名簿 3) 医療安全管理業務の実施状況
5. 監査概要
 - 1) 出席者紹介
 - ・千野委員から鈴木委員に変更。
 - 2) 監査委員会の成立
監査委員会規程第 5 条第 3 項により、委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立した。
 - 3) 医療安全管理業務の実施状況について
 - ①医師のレポート提出状況、画像レポート・病理報告の未読への対応、医療事故調査制度に該当する事例、高難度新規医療技術の申請状況、Safety-II に関する取り組みについて報告。
 - ②インシデント/アクシデントレポート経時的分析による 2024 年度の分析結果、2024 年度上半期レポート・事例検討による安全対策の評価、2024 年度下半期レポート・事例検討による安全対策について報告。
 - ③薬剤関連のインシデントレポートのまとめ、レポート事例検討と安全対策の評価（2024 年度上半期）、レポート事例検討と安全対策（2024 年度下半期）、外来処方の疑義照会事例、未承認薬・適応外使用薬の使用について報告。
 - ④医療機器に関する EMI 報告（2024 年度上半期・下半期レポート数）、2024 年度上半期レポート事例の対策と評価、2024 年度下半期レポート事例の対策、生体情報モニタに関する継続報告事項、未承認新規医薬品等申請について、その他課題事項について報告。
6. 監査結果
 - 1) 全体的に良く検討されていた。臨床研修医のレポート提出については、委員長の意見を踏まえ、定着するように検討を進めてほしい。また、医療機器導入時の研修については、重大なエラーが生じないよう基準作りを進めていただきたい。
 - 2) 医師のレポート提出件数が低下してきたということであるが、提出率 10%以上はあるため、素晴らしいと思う。抗血栓薬については、再開忘れが起きると大きな問題になるため、薬剤師不足の問題はあると思うが、多職種でカバーして早期に安全な体制を構築していただきたい。

3) 現在の日本の医療体制は非常に厳しい状況に置かれている。特に高度医療や地域の基幹病院となると高度医療の提供とコスト削減、さらに医師の働き方改革など多くの課題を抱えており、非常に厳しい状況にある。その中で努力を重ねていることは非常に高く評価できる。安全は医療の根幹であり、様々な課題がある中でバランスを取りながら、安全確保に向けた取り組みを継続してほしい。

7. 総 評

東海大学医学部附属病院は、医療安全に関して大変素晴らしい取り組みを行っており、特定機能病院の中でも特に多職種（医師・看護師・薬剤師・ME・事務等）が連携して医療安全に取り組んでいる点が素晴らしい。今後とも是非この取り組みを継続していただきたい。

今年度「心理的安全性の確保と Safety-II の推進」が医療安全目標に掲げられたということなので、今後の取り組みに期待している。特に心理的安全性は多くの病院で課題となっているが、その大前提として心理的安全性はハラスメントがないことと思う。ハラスメントに関しても、医療安全の一環として環境整備が進められることを望んでおり、次回是非教えていただきたい。

また、医療安全に力を入れるということは、病院経営や働き方改革とは逆行するため、バランスよく優先順位を考えて取り組んでいただきたい。

最後に、東海大学医学部附属病院だからこそお願いしたい内容として、他の特定機能病院ではまだ取り組まれていないリチウム電池の安全対策が挙げられる。近年、スマートフォンや充電器の発火事故が電車内や家庭で発生しており、航空業界では既に安全対策として、これらの機器を機内持ち込みに限定する措置が取られている。これは、万が一の火災に即座に対応できるようにするためであり、実際に事故は発生していない。医療現場でも同様のリスクが存在するため、病院として先進的に対応を始めることが望まれる。医療現場においては3つの重要な視点があり、1つ目は医療機器である。多くの医療機器にリチウム電池が使用されており、過去には非接触型体温計やセンサー式手指消毒機器で発火・発煙事故が報告されている。そのため、どの機器にリチウム電池が使われているかを把握し、事故例を共有することが重要である。2つ目は医療従事者の私物のスマートフォンや充電器、携帯用扇風機等である。それらは発火するリスクがあるため、各自が取り扱いに注意する必要がある。3つ目は患者の私物である。患者もスマートフォンや充電器を所持している可能性が高く、車内の高温環境での保管等による発火リスクについて注意喚起が必要である。これらの安全対策を貴院が先進的に取り組み、全国に向けて発信していただくことを望んでいる。

8. そ の 他

1) 2025年度第2回東海大学医学部附属病院医療安全管理業務監査委員会の監査項目について

- ・課題、意見等があればメールにて、事務局まで連絡をお願いしたい。
- ・可能な限り対面での出席をお願いする。

2) 第2回の開催日

- ・2026年2月～3月に開催予定。

以 上